二十三年

早稲田大学図書館
文書 27
A 78

寅

二十二年

中秋 九月廿八日

二十三年度
歳入額

一金八千百九十八万八十四円四十二銭一厘
歳出額

一金八千百九十七万八千五百七十八円六十九銭二厘
此年度行ハ大和省ニ於テ之ヲ書ス

一壹千四百九十六万円ニ付

懷中日記

明治廿三年
庚寅平年

神武天皇即位紀元二千五百五十年

泰西一千八百九十年
清國光緒十六年

明治二十三年略暦

庚寅	二十四節		七値	干支	日出	日入	滿潮 午前	滿潮 午後	干潮 午前	干潮 午後	陰暦
一月大	小寒 五日午後五時〇二分	大寒 廿日午前一〇時二八分	水曜	壬午	六時五二分	四時三七分	〇時五二分	一時二六分	七時〇九分	七時四二分	己丑十二月十一日
二月平	立春 四日午前四時五一分	雨水 十九日午前〇時五九分	土曜	癸丑	六時四三分	五時〇七分	二時一七分	二時五四分	八時三五分	九時一一分	閏十二月十二日
三月大	啓蟄 五日午後一一時二五分	春分 廿一日午前〇時四一分	土曜	辛巳	六時一三分	五時三五分	〇時〇四分	〇時四二分	六時二四分	七時〇三分	庚寅正月十一日
四月小	清明 五日午前五時〇二分	穀雨 廿日午後〇時三五分	火曜	壬子	五時二九分	六時〇一分	二時〇七分	二時四九分	八時二八分	九時〇七分	二月十二日
五月大	立夏 五日午後一一時一二分	小滿 廿一日午後〇時三〇分	木曜	壬午	四時五一分	六時二六分	二時三四分	三時〇六分	八時五〇分	九時二〇分	三月十三日
六月小	芒種 六日午前四時〇一分	夏至 廿一日午後八時五四分	日曜	癸丑	四時二八分	六時五〇分	三時三一分	三時五三分	九時四二分	一〇時〇四分	四月十四日
七月大	小暑 七日午後二時三二分	大暑 廿三日午前七時四八分	火曜	癸未	四時二九分	六時五九分	三時三四分	四時〇一分	九時四八分	一〇時一四分	五月十五日
八月大	立秋 八日午前〇時〇八分	處暑 廿三日午後二時二六分	金曜	甲寅	四時四九分	六時四四分	五時〇七分	五時三四分	一一時二一分	一一時四七分	六月十六日
九月小	白露 八日午前二時二七分	秋分 廿三日午前一一時二二分	月曜	乙酉	五時一三分	六時〇八分	六時三五分	六時五八分	〇時二四分	〇時四七分	七月十七日
十月大	寒露 八日午後五時一八分	霜降 廿三日午後七時五五分	水曜	乙卯	五時三七分	五時二四分	六時五五分	七時一四分	〇時四四分	一時〇四分	八月十八日
十一月小	立冬 七日午後七時四四分	小雪 廿二日午後四時四九分	土曜	丙戌	六時〇四分	四時四五分	七時四四分	八時〇二分	一時三四分	一時五三分	九月十九日
十二月大	大雪 七日午後〇時〇二分	冬至 廿二日午前五時四五分	月曜	丙辰	六時三三分	四時二七分	八時〇二分	八時二〇分	一時五三分	二時一一分	十月二十日

懷中日記序

予曾テ佛國千八百七十八年ノ新日記簿（ヌーヴヘルアジヤンダ）ヲ外人某氏ニ得タリ即チ一歳中ノ日記簿ニシテ紀事及日計月計ヨリ年計ニ至ル迄ノ位地ヲ設ケ之ニ繫ルニ新古雜錄ヲ以テセリ因テ今其體式ニ倣ヒ以テ是書ヲ編ス庶幾クハ人々日々ノ紀事ト會計トヲ明カニシ年間ノ閲歴ヲ異日ニ見ルノ便ヲ得セシメント云爾

明治十二年十二月

印刷局長誌

其二

新月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
滿月	六日	十九日	七日	十九日	五日	十七日	二日	十六日	十四日	十四日	十二日	十二日
日曜日	廿十十五 六九二 日日日日	廿十九二 三六 日日日日	三廿十九二 十三六 日日日日	廿十二六 七十三 日日日日	廿十十四 五八一 日日日日	廿廿十八一 九二五 日日日日	廿廿十六 七三 日日日日	三十十三 十四七 日日日日	廿廿十七 八一四 日日日日	廿十十五 六九二 日日日日	三廿十九二 十三六 日日日日	廿廿十七 八一四 日日日日
大祭祝日	四方拜	元始祭	新年宴會	孝明天皇祭	紀元節	春季皇靈祭	神武天皇祭	秋季皇靈祭	神嘗祭	天長節	新嘗祭	
	一月一日	一月三日	一月五日	一月三十日	二月十一日	三月廿一日	四月三日	九月廿三日	十月十七日	十一月三日	十一月廿三日	
氣節月日	節分 二月三日	八十八夜 五月二日	入梅 六月十一日	半夏生 七月二日	二百十日 九月一日							
氣節月日	土用											
氣節月日時刻	一月十七日 午前一一時四五分	四月十七日 午前一〇時一分	七月廿日 午前四時二四分	十月廿日 午後七時三八分								
氣節月日	彼岸		社日									
	三月十八日	九月二十日	三月十八日	九月廿四日								
干支	甲子											
	二月十二日	四月十三日	六月十二日	八月十一日	十月十日	十二月九日						
干支	庚申											
	二月八日	四月九日	六月八日	八月七日	十月六日	十二月五日						
干支	己巳											
	二月十七日	四月十八日	六月十七日	八月十六日	十月十五日	十二月十四日						

○時ハ明治十九年七月十二日ノ勅令ニ遵ヒ本邦標準時即チ英國グリニツチ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ之ヲ示ス

水曜 一月一日 壬午

刑法治罪法ヲ施行ス 明治十五

三年

木曜 一月二日 癸未

各國公使等朝賀ノ始トス 明治五

朝賀ノ新正ヲ賀スヲ外國公使

金曜 始テ元始祭ヲ行フ 明治五 各種ノ勲章等級製式及大勲位菊花頸飾ノ製式ヲ公布セラル 明治廿一

八日以下ノ五箇ヲ廢シ神武天皇即位日天長節ヲ以テ祝日ト爲ス 明治六

始メテ占星臺ヲ起ス 天武天皇三年 楠正行四條畷ニ戰死ス 正平三

公卿ノ涅歯黥眉古制ニ非サルヲ以テ必シモ循守セサルヲ令ス 明治元

火曜　一月七日　戊子

始メテ武内宿禰ヲ以テ大臣ト爲ス　成務天皇三年

出勤　浅野士勳外北條佳竹
東局相馬家好見人辭職
之後好到　逸達
勝ヶ吉村ノ近事ヲ世ニ等
午後四時ヨリ山王ヲ被ル系僧
星岡ニ重野寺田木ト小牧
太長知事ヲ送別清人
陳孫劉陶ホ来會　岡山来ル
金是日緑金ヲ

水曜　一月八日　己丑

小學生徒ノ學齡（滿六年ヨリ十四年ニ至ル）ヲ定ム　明治八

出勤　吉村ヲ黒田ニ行来ル
此日徳大寺ニ以黒田ニ皆見ル
高見ヤ直ニ持ヲ河出ヲ
何事ニ此日参内意見ヲ前ニ
拒違シテ
夜吉村ニ行ク子ニ芝ヲ
ヒ出ヲ到ル

木曜　一月九日　庚寅

參内賢所參拜吹上御苑參入ノ輩昇降下乘制限ヲ定メラル　明治二十二

出勤　梅園京都ニ来ル
岩倉ヲ出ル此ニ安藤ヲ
可祝今日ヨリ学習院ニ陶ル
晩来山吉下條長政ヲ来話
酒会夜十時散ス三人ニ来
餘傾倒ス　夫ニ海戸ヲ

金曜　一月十日　辛卯

始メテ東京琉球ノ間ニ郵船ヲ通ス　明治七

出勤
吉村ヲ吉岡ニ山内ニ晩
邑人留ル
退下糟蛋三種黒田清隆ニ
持参中ニ居合對酌夜ニ
入リ伊集院ヲ新入来閑話
十時頃ヨリ
金氏ニ龍伝三十歳買ヒ

土曜　一月十一日　壬辰

武藏國秩父郡和銅ヲ獻ス宣詔シテ元ヲ改ム　和銅元

聖上皇后兩陛下宮城ヘ御移轉アラセラレタリ　明治二十二

出勤

日曜　一月十二日　癸巳

始メテ楮幣ヲ用フ　建武元

月曜　一月十三日　甲午

吳工女漢織吳織等始メテ來ル　雄略天皇十四年

源頼朝薨ス　正治元

出勤

火曜　一月十四日　乙未

陸軍部内ニ憲兵ヲ設ク　明治十四

出勤

退下稅務ヲ諮ス

水曜　一月十五日　丙申

左道ヲ以テ人民ヲ蠱惑スルヲ禁ス　明治六

出勤

古藤横田ヲ以テ百五十四ヲ
借用シ来ル
退下古藤ト對食
清公使ハ大八ノ書翰ヲ致ス

木曜　一月十六日　丁酉

玉川水道成ル　承應二

出勤

古藤今日納税返納
月給百三十三円下賜
長政恩ニ陪席所印地評判
夜土州ヨリ家計経費

金曜　一月十七日　戊戌

孝明帝諸公卿ヲ召シテ米國ノ事ヲ商議ス　安政五

出勤

退下芝税所ヲ訪今朝出立ヲ
良ニ以ル
芝礦泉入浴高崎ヲ過不立
鳥ヲ買一円[illegible]山[illegible]
吉井ヨリ有念氣西郷大山大保
其他親族子供ヲ芝谷ヘ分家ノ
祝ナリ

土曜　一月十八日　己亥

幕府始メテ使節ヲ米國ニ遣ス　萬延元

出勤

井田岩楠家ヲ[illegible]

午後退者直ニ浅草ヤツコ花ニ到
すし[illegible]ヲ[illegible]テ食す一円十[illegible]
[illegible]八十[illegible]土産鰻七両[illegible]
晩天帰[illegible]

日曜　一月十九日　庚子

江戸大火 明暦三

朝ヨリ會計月費金ヲ家内ニ
渡ス

桜村清徳祖母死去今日葬式ヲ
菓子一箱ヲ西ニ贈ル

七

月曜　一月二十日　辛丑

源義仲戰死ス 元暦元　諸道ノ關門ヲ廢ス 明治二

晴今日ヨリ大寒ニ入ル
青月ヨリ有使参省前立
[illegible]
大臣[illegible]
[illegible]

此信ニ大八ハ無音ヲ

十

火曜　一月廿一日　壬寅

爵位號ヲ改メ階級ヲ增加ス 天武天皇十三年
徵兵令改正ヲ公布セラル 明治二十二

出勤

清暦光緒庚寅十六年元旦
公使館ヘ第賀黎西令ニ
百大八ノ文章ヲ寄ス[illegible]
公使[illegible]
[illegible]
夜食ハ一杯[illegible]
病ヲ訪ル[illegible]

水曜　一月廿二日　癸卯

金穀ノ進獻ヲ停ム 明治五

晴寒ニ
十時前参省
朝鮮陳陶劉孫ヘ賀表ニ刺ヲ
出ス

退下芝温泉ニ入ル
紅葉館朝鮮公使送ル
花分ニ出席
金嘉鎮ヨリ四本俞箕煥代
一円五十錢酒[illegible]二十錢車夫

七

十一

木曜　一月廿三日　甲辰

薩長肥土四藩ヨリ藩籍ヲ奉還セント上表ス　明治二

朝より雨大寒四日雨秋如し
天候不順朝大工来風呂ヲ命ス
皇太后御従食十時半参候
立食ニ祝酒ヲ賜
十時陽明ニ於参省風雨寒
寒し
大工二千鍬ヲ授ス
青山ニ於所ニ御後夜大臣ニ立語
吉井ニ磯邊磯邊三橋
夜母妻と對食す

金曜　一月廿四日　乙巳

参與大久保利通遷都ノ議ヲ上ル　明治元

今朝雨霽
出勤
寒中天機ニ付雨陽不
得能通昌懐中日記紙再
恵送アリ
退下去年ヲ見舞
千枝高雅入来家内面会
大工ヲ来ル水風呂破損
勝事分ヲ誘候殺十日
恵越書
以ノ人物得歴編纂ヲ
夜来風吹陰月清亮

土曜　一月廿五日　丙午

菅原道眞ヲ貶ス　延喜元

北風寒甚
出勤
午後三時上御機嫌甚ト山岸
出仕ノ事内ニ判任八十人
盛宴新年会ヲ行ス夜八時
御還

日曜　一月廿六日　丁未

函館札幌根室三縣並北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク　明治十九

北山左衛門ニ於テ七十ヲ祝ス
子時酒代ヲ送ル
石原助安前田磯助ヲ来
鶴印ヲ見ル如来
桂木地来園木ハ肥ニ拝ケ
朝鮮公使金口陸来辭行
夜支井見縣無物花荊
御使ハ洪氏ヲ支井表ヲ

月曜　一月廿七日　戊申

御諱缺畫ノ制ヲ廢ス　明治五

火曜　一月廿八日　己酉

古事記ヲ上ル　和銅五

東京市區改正止地建物處分規則公布セラル　明治二十二

水曜　一月廿九日　庚戌

卒ノ世襲スルモノヲ士族ト爲ス　明治五

木曜　一月三十日　辛亥

東京郡内ノ疆界ヲ改定ス　明治四

金曜　一月三十一日　壬子

地方官ニ令シ戊辰己巳ノ役戰死者ノ墳墓ヲ修繕シ荒廢スル勿ラシム　明治七

[illegible]

本月ヲ減ニ平穏ニ[illegible]

○二百四十内　上欵　地租[illegible]

○二十三円　地

○十九円　[illegible]

○五十三円　[illegible]

下欵

○二十五円　大八[illegible]

○二十五円　[illegible]

○

一月會計

日次	受攜方要	円		拂方攜要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

土曜　二月一日　癸丑

詔シテ國郡ニ長ヲ立テ縣邑ニ首ヲ置ク 成務 天皇四年

日曜　二月二日　甲寅

文部省女子師範學校ヲ東京ニ創建ス 明治八

月曜　二月三日　乙卯

丁抹公使支那日本ノ海底ニ電信線ヲ設ケント請フ之ヲ許ス 明治四

火曜　二月四日　丙辰

大石良雄等ニ死ヲ賜フ 元祿十六

水曜　二月五日　丁巳

車駕京都大阪間ノ鐵道開業式ニ臨ム　明治十

木曜　二月六日　戊午

國書封囊ノ緘章ヲ定ム　明治十一

金曜　二月七日　己未

復讐嚴禁ヲ令ス　明治六

土曜　二月八日　庚申

開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク　明治十五

日曜　二月九日　辛酉

參議兼内務卿大久保利通ニ命シ佐賀ノ賊ヲ鎭撫セシム　明治七

今朝北風[illegible]

[illegible]

大沢澤雪七十歳ニ人初テ見ルト言フ

晩来長政入来[illegible]

[illegible]

月曜　二月十日　壬戌

詔シテ國史ヲ撰ス　和銅七

[illegible]

火曜　二月十一日　癸亥

大日本帝國憲法發布セラル　明治二十二

紀元二千五百五十年ナリ紀元大節

午前十時[illegible]

[illegible]

白雪[illegible]

[illegible]

水曜　二月十二日　甲子

東京金銀座ヲ廢ス　明治二

雪[illegible]

[illegible]

木曜　二月十三日　乙丑

平民ニ令シテ氏ヲ稱シ其詳ナラサルモノハ新ニ之ヲ設ケシム　明治八

金曜　二月十四日　丙寅

美濃國大水死スル者二萬餘人民戸流亡スル者數萬家　天文四

土曜　二月十五日　丁卯

應神天皇崩ス　四十一年

土地賣買ノ禁ヲ解ク　明治五

日曜　二月十六日　戊辰

僧西行京師ニ卒ス年七十三　建久元

月曜　二月十七日　己巳

證券印紙ヲ發行ス 明治六

火曜　二月十八日　庚午

琉球藩ノ三司官池城安規等東京ニ來ル 明治八

水曜　二月十九日　辛未

大鹽平八郎亂ヲ大阪ニナス 天保八

木曜　二月二十日　壬申

荻生金谷先人徂徠ノ遺書度量衡考ヲ幕府ニ獻ス 享保十四

金曜　二月廿一日　癸酉

源家康ニ東照大權現ノ號ヲ贈ラル　元和三

土曜　二月廿二日　甲戌

陸奥始メテ黃金ヲ獻ス　天平感寶元

衆庶ニ民事訴訟審判ノ傍聽ヲ許ス　明治八

日曜　二月廿三日　乙亥

天皇地方官會議院ヘ臨御　明治十三

月曜　二月廿四日　丙子

後醍醐天皇隱岐ヲ出ヅ　元弘三閏月

火曜　二月廿五日　丁丑

菅原道眞薨ス　延喜三

木曜　二月廿六日　戊寅

綏靖天皇ノ陵ヲ大和高市郡四條村ニ發見ス　明治一

府縣會議員選擧規則ヲ公布セラル　明治二十二

木曜　二月廿七日　己卯

外務卿副島種臣ヲ特命全權大使トナシ淸國ニ差遣ス　明治大

金曜　二月廿八日　庚辰

富士山噴火ス　永保三

兵部省ヲ廢シ陸軍海軍二省ヲ置ク　明治五

土曜　三月一日　辛巳

加賀國ヲ置ク　弘仁十四　江戸城ヲ改築ス　慶長一一

日曜　三月二日　壬午

鑄錢司ヲ置ク　持統天皇八年

二月會計

次日	摘要	受方 円		摘要	拂方 円	
一					十二	
二					十五	
三					四	
四					六	
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
總計						
殘高						
比較合計						

月曜　三月三日　癸未

水戸浪士井伊直弼ヲ櫻田門外ニ殺ス　萬延元

火曜　三月四日　甲申

江戸大火　文化三

水曜　三月五日　乙酉

太政官中會計檢査院ヲ置ク　明治十三

木曜　三月六日　丙戌

備前讃岐間ノ海底電信線成ル　明治十

金曜　三月七日　丁亥

新羅始メテ朝貢ス 神功皇后攝政五年

神武天皇即位日ヲ紀元節ト稱ス 明治六

土曜　三月八日　戊子

始テ度量ヲ天下ニ頒ツ 大寶二

日曜　三月九日　己丑

高山正之ニ正四位ヲ贈リ神號ヲ高山神社ト賜フ 明治十一

月曜　三月十日　庚寅

天照大神祠ヲ伊勢ニ建ツ 垂仁天皇廿五年

火曜　三月十一日　辛卯

神武天皇崩ス　七十六年　平重盛薨ス　治承三

水曜　三月十二日　壬辰

上杉輝虎卒ス　天正六

一六日ノ休暇ヲ日曜日ニ更ム　明治九

木曜　三月十三日　癸巳

國稅徵收法ヲ公布セラル　明治二十二

金曜　三月十四日　甲午

外國人トノ婚嫁ヲ許ス　明治大

海防費補助トシテ宮禁ノ儲餘三拾万圓支出ノ勅諭アリ　明治二十

土曜　三月十五日　乙未

洋文ヲ洋紙ニ書スルノ外公文ニ洋製「インキ」ヲ用ルヲ禁ス　明治九

藥品營業並藥品取扱規則ヲ公布セラル　明治二十二

日曜　三月十六日　丙申

桓武天皇千年忌ヲ延暦寺ニ修ム　文化二

月曜　三月十七日　丁酉

宮中ニ制度取調局ヲ置ク　明治十七

火曜　三月十八日　戊戌

外國人ノ我學校ニ入學スルヲ許ス　明治七

水曜　三月十九日　己亥

所得税法公布セラル　明治二十

木曜　三月二十日　庚子

婦女ノ罪犯ニ棒鎖ヲ用フルヲ禁ス　明治八

金曜　三月廿一日　辛丑

始メテ新令ニ依テ官名位號ヲ改ム　大寶元

江戸大火　文政十二

土曜　三月廿二日　壬寅

地券ヲ廢止シ土地臺帳規則ヲ公布セラル　明治二十二

日曜　三月廿三日　癸卯

大政維新ノ旨ヲ朝鮮ニ報ス　明治元

月曜　三月廿四日　甲辰

源義經大ニ平氏ヲ壇浦ニ敗ル　文治元

信濃地大ニ震フ　弘化四

火曜　三月廿五日　乙巳

電信中央局ヲ東京ニ置ク　明治十一

水曜　三月廿六日　丙午

秀吉京都ヲ發シテ朝鮮ヲ伐ツ　文祿元

木曜　三月廿七日　丁未

始テ新聞紙ヲ各府縣ニ頒布ス　明治五

金曜　三月廿八日　戊申

大禮服幷軍人等制規アル服着用ノ外廢刀ヲ布告ス　明治九

土曜　三月廿九日　己酉

諸標榜等ニ禁裡ノ字ヲ冒シ及菊章ヲ濫用スルヲ禁ス　明治元

日曜　三月三十日　庚戌

郵舶ヲ清國上海及ヒ其近傍ノ地ニ通スルヲ布告ス　明治八

月曜　三月三十一日　辛亥

是月本願寺ノ僧一寺ヲ江戸ノ築地ニ建ッ　延寶八

計會　三月

次日	要摘方受	円		要摘方拂	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

火曜　四月一日　壬子

島津氏ノ兵琉球ニ入ル　慶長十四
満廿年ヲ丁年ト定ム　明治九

水曜　四月二日　癸丑

幕府米利堅ニ購買スル所ノ甲鐵艦横濱港ニ至ル　明治元

木曜　四月三日　甲寅

憲法十七條ヲ定ム　推古天皇十二年
丹後美作大隅ノ三國ヲ置ク　和銅

金曜　四月四日　乙卯

琉球藩ヲ廢シ沖繩縣ヲ置ク　明治十二

土曜 四月五日 丙辰

越後高田地大ニ震フ 靈暦元

出勤午後

日曜 四月六日 丁巳

佐久間象山吉田松陰ヲ獄ニ下ス 安政元

月曜 四月七日 戊午

農商務省ヲ置ク 明治十四

火曜 四月八日 己未

太田道灌江戸城ヲ築ク 長禄元

水曜　四月九日　庚申

名主年寄等ヲ廢シ戸長ヲ置ク　明治五

天気晴

出勤

木曜　四月十日　辛酉

外人ノ北海道近海ニ來リテ漁獵スルヲ禁ス（三里以内ヲ限ル）　明治九

出勤

金曜　四月十一日　壬戌

京都大津間鐵路造築ノ議ヲ許ス　明治十一

出勤

土曜　四月十二日　癸亥

武田晴信卒ス　天正元

出勤

日曜　四月十三日　甲子

大納言藤原氏宗等貞觀格ヲ上ル　貞觀十一

月曜　四月十四日　乙丑

元老院大審院ヲ置ク　明治八

火曜　四月十五日　丙寅

布哇國特命全權公使國書ヲ捧シテ參內ス　明治十七

水曜　四月十六日　丁卯

天皇鎌倉宮ニ謁ス　明治六

木曜　四月十七日　戊辰

徳川家康薨ス　元和二

市制及町村制ヲ公布セラル　明治廿一

専売特許條例ヲ制定シ十八年七月一日ヨリ施行ス　明治十八

金曜　四月十八日　己巳

土曜　四月十九日　庚午

前權大納言藤原爲世續千載和歌集ヲ上ル　元應二

日曜　四月二十日　辛未

北條氏康上杉氏ヲ河越ニ破ル　天文十五

月曜　四月廿一日　壬申

勅シテ贈正三位左近衛中將楠正成ノ祠宇ヲ湊川ニ營シ其子正行以下ヲ配祀ス　明治元

火曜　四月廿二日　癸酉

弘暦者ヲ除クノ外私ニ暦本ヲ販賣スルヲ禁ス　明治三

水曜　四月廿三日　甲戌

詔シテ男女ニ令シテ悉ク結髪セシム　天武天皇十年

木曜　四月廿四日　乙亥

府藩縣ニ令シテ普ク種痘ヲ行ハシム　明治三

金曜　四月廿五日　丙子

僧侶食肉娶妻蓄髪ヲ許ス　明治五

土曜　四月廿六日　丁丑

伊太利國特命全權公使朝見シ國書ヲ上リ皇子「ウンベルト」位ヲ嗣ク旨ヲ報ス　明治十一

日曜　四月廿七日　戊寅

大勲位菊花大綬章菊花章ヲ露國皇帝ニ贈ル　明治十九

月曜　四月廿八日　己卯

華族世襲財産法ヲ公布セラル　明治十九

樞密院ヲ置ク　明治廿一

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
總計						
殘高						
比較合計						

火曜　四月廿九日　庚辰

京都府ヲ置ク　明治元閏月

水曜　四月三十日　辛巳

神佛諸宗ヲ混同シテ教院ヲ立ルヲ停ム　明治八

會計規則ヲ公布セラル　明治二十二

雨

木曜　五月一日　壬午

北征ノ海軍賊ト函館港ニ戰ヒ賊艦一隻ヲ得 明治二

金曜　五月二日　癸未

能登安房石城石背國ヲ置ク 養老二

土曜　五月三日　甲申

詔シテ御名ヲ避諱セシム 延暦四

日曜　五月四日　乙酉

上等裁判所ヲ東京 大阪 長崎 福島ニ置ク 明治八

月曜　五月五日　丙戌

皇城火アリ　明治六

也田兵條例ヲ定ム　明治十八

火曜　五月六日　丁亥

朝鮮使始メテ江戸ニ來ル　歷長二

水曜　五月七日　戊子

電信切手（十種）ヲ發行ス　明治十八

木曜　五月八日　己丑

醤油税則及菓子税則ヲ制定シ十八年七月一日ヨリ施行ス　明治十八

日曜　五月十一日　壬辰

大阪神戸間ノ鐵道成ル　明治七

月曜　五月十二日　癸巳

金曜　五月九日　庚寅

富山佐賀宮崎三縣ヲ置ク　明治十六

土曜　五月十日　辛卯

米船一艘豐前田ノ浦ヲ過ク萩藩之ヲ砲撃ス米船モ亦砲ヲ發ス利アラスシテ退ク　文久三

火曜　五月十三日　甲午

参議副島種臣ヲ魯國（ポシエツト湾）ニ差遣シ樺太島彊界ノ事ヲ協議ス　明治四

水曜　五月十四日　乙未

瑞西合衆國ト本條約成ル　慶應元

例公布セラル　明治二十

取引所條

七十二

木曜　五月十五日　丙申

東叡山ノ賊ヲ討ス　明治元

金曜　五月十六日　丁酉

列藩ノ私ニ關ヲ置ヲ禁ス　明治元

七十三

私設鐵道條例ヲ公布セラル　明治二十

五稜郭ノ賊降リ函館平定ス　明治二

信長今川義元ヲ桶峡ニ敗ル　永禄三

華士族ノ合家ヲ禁ス　明治九

水曜　五月廿一日　壬寅

楠正成六波羅兵ト四天王寺ニ戰ヒ大ニ之ヲ破ル　元弘二

木曜　五月廿二日　癸卯

新田義貞鎌倉ヲ破ル　元弘三　臺灣諸蕃降ル　明治七

金曜　五月廿三日　甲辰

私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ賛成スルモノニ授與スル爲メ賞綬褒章ヲ制定セラル　明治二十

土曜　五月廿四日　乙巳

應仁ノ亂是日ヨリ起ル　應仁元

日曜　五月廿五日　丙午

楠正成湊川ニ戰死ス　延元

月曜　五月廿六日　丁未

兌換銀行券條例制定十七年七月一日ヨリ施行ス　明治十七

火曜　五月廿七日　戊申

一般ニ貿易銀通用ヲ許可ス　明治十一

水曜　五月廿八日　己酉

夜半水戸浪士英公使ノ旅館高輪東禪寺ニ亂入ス　文久元

東京ニ於テ小學師範學校設置　明治五

皇子女御降誕ノ時ハ自今宣下ニ不及親王内親王ト稱ス　明治九

婦女ニテ一家相續者ハ自印ヲ用ヒシム　明治六

日曜　六月一日　癸丑

寛永通寶錢ヲ行フ　寛永十三

月曜　六月二日　甲寅

明智光秀織田信長ヲ弑ス　天正十

五月會計

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

火曜 六月三日 乙卯

幾内等ノ國ニ令シテ茶ヲ植エ毎年之ヲ獻セシム 弘仁六

後醍醐帝京師ニ還ル百官奉迎ス 元弘三

貴族院伯子男爵議員選挙規則並貴族院多額納税者議員互選規則ヲ公布セラル 明治二十二

水曜 六月四日 丙辰

木曜 六月五日 丁巳

春分秋分二季ニ皇靈祭ヲ定ム 明治十一

金曜 六月六日 戊午

政府發行ノ紙幣ハ明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換ス 明治十八

商標條例ヲ制定ス 明治十七

出勤

田畑石高ノ稱ヲ廢シ之ニ代ルニ反別ヲ以テセシム 明治六

東京招魂社ヲ靖國神社ト改稱別格官幣社ニ列ス 明治十二

出勤

絕家期限（滿六ヶ月以内）ヲ制定ス 明治十七

出勤

水曜　六月十一日　癸亥

日章ヲ以テ本邦總船ノ記號トス　安政元
物品會計規則ヲ公布セラル　明治二十二

木曜　六月十二日　甲子

英國ト本條約成ル　安政六

金曜　六月十三日　乙丑

明智光秀土兵ノ爲ニ鏖殺セラル　天正十
大勲位以下宮中儀式上席次ヲ定メラル　明治二十一

土曜　六月十四日　丙寅

鳥取藩士大阪ニテ英船ヲ砲撃ス　文久三

日曜　六月十五日　丁卯

弘文天皇ノ陵ヲ近江國滋賀郡大津ニ發見ス　明治十

月曜　六月十六日　戊辰

火曜　六月十七日　己巳

來ル七月一日ヨリ國内一般郵便ヲ開クヲ令ス　明治五

水曜　六月十八日　庚午

幕府内田正雄等ヲ蘭國ニ留學セシム　文久二

木曜　六月十九日　辛未

始メテ年號ヲ紀ス　大化元
萬國郵便聯合條約ヲ頒ツ　明治十

金曜　六月二十日　壬申

土曜　六月廿一日　癸酉

白耳義ト假條約成ル　慶應二

日曜　六月廿二日　甲戌

月曜　六月廿三日　乙亥

郵便徽章ヲ改定ス　明治十七

火曜　六月廿四日　丙子

阿媽港黒船二艘長崎ニ來リ交易ヲ請フ再渡ヲ嚴禁シテ放チ遣ル　正保四

水曜　六月廿五日　丁丑

上野高崎間鐵道開業式ヲ執行ス　明治十七

木曜　六月廿六日　戊寅

支那人竹溪紙幣ヲ贋造スルヲ以テ獄ニ下シ尋テ之ヲ斬ス　明治三

金曜　六月廿七日　己卯

日本銀行條例ヲ制定ス　明治十五

土曜　六月廿八日　庚辰

新聞條例讒謗律ヲ定ム　明治八

△

日曜　六月廿九日　辛巳

招魂社ヲ東京ニ營ス　明治二

月曜　六月三十日　壬午

新田義貞足利尊氏ト京師ニ戰ヒ利アラス名和長年之ニ死ス　延元元

六月會計

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
總計						
殘高						
比較合計						

火曜　七月一日　癸未

大ヒニ元軍ヲ敗ル弘安四　官報ヲ發行ス明治十大

水曜　七月二日　甲申

新田義貞藤島ニ戰死ス延元三閏月

木曜　七月三日　乙酉

郵便ヲ東京横濱ノ間ニ設ク 明治四

午後四時出棺青山ニ到ル
送人百名餘埋葬終ル
不雨誠ニ好運ト可謂

金曜　七月四日　丙戌

米國前大統領「グランド」氏參朝ス 明治十二

雨

土曜　七月五日　丁亥

元老院ヲ開ク天皇親臨シテ其儀ヲ行フ 明治八

日曜　七月六日　戊子

舊金銀貨價格表ヲ改正ス 明治十八

月曜 七月七日 己丑

信濃淺間嶽噴火ス 天明三

始テ授爵式ヲ行ヒ華族ニ爵ヲ賜フ 明治十七

火曜 七月八日 庚寅

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ製造ヲ禁止ス 明治十八

水曜 七月九日 辛卯

濱殿石室ヲ延遼館ト稱セラル 明治二

木曜 七月十日 壬辰

華士族分家ノ者ハ自今平民籍ニ編入ス 明治七

金曜 七月十一日 癸巳

崇徳上皇兵ヲ擧ク 保元

土曜 七月十二日 甲午

源頼朝征夷大将軍トナル 建久三

日曜 七月十三日 乙未

東京府下士民ノ神葬地ヲ定ム 明治五

月曜 七月十四日 丙申

詔シテ列藩ヲ廢シ悉ク縣トナス 明治四

火曜　七月十五日　丁酉

岩代國磐梯山噴火ス　明治廿一

水曜　七月十六日　戊戌

日本武尊ニ命シテ東征セシム　景行天皇四十年

木曜　七月十七日　己亥

詔シテ江戸ヲ以テ東京ト爲ス　明治元

墨西哥合衆國トノ修好通商條約ヲ批准公布セラル　明治二十二

金曜　七月十八日　庚子

大學ヲ廢シ文部省ヲ置ク　明治四

土曜 七月 十九日 辛丑

農商私ニ姓氏ヲ稱シ雙刀ヲ帶ルヲ禁ス 享和元

日曜 七月 二十日 壬寅

前右大臣岩倉具視薨ス 明治十六

月曜 七月 廿一日 癸卯

徳川綱條禮義類典ヲ幕府ニ獻ス 寶永七

火曜 七月 廿二日 甲辰

従前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徴收セル府縣費區費ニ改メ更ニ地方稅トシ其規則ヲ定ム 明治十一

水曜 七月廿三日 乙巳

渡入紙製造取締規則ヲ公布セラル 明治二十

木曜 七月廿四日 丙午

金穀及物品員數ニ關係スル一二十ノ文字ハ壹貳拾ノ字体ヲ用ヒシム 明治七

金曜 七月廿五日 丁未

逆徒由井正雪誅ニ伏ス 慶安四

土曜 七月廿六日 戊申

京都大阪間ノ鐵道成ル 明治九

日曜　七月廿七日　己酉

外國教員ヲ大學南校ニ聘シ列藩ヲシテ生徒ヲ貢進セシム 明治三

月曜　七月廿八日　庚戌

詔シテ全國地租ヲ改正シ地券ヲ設ク 明治六

火曜　七月廿九日　辛亥

京都二條城ヲ離宮ト定ム 明治十七

屯田兵條例改正セラル 明治十二

水曜　七月三十日　壬子

地大ヒニ震ヒ諸國海溢ル仁和三

土地收用法公布セラル 明治二十二

特別輸出港規則公布セラル 明治二十二

次日	要摘方受	円		要摘方拂	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

諸皇族ノ祿米ヲ廢シ賄料ヲ賜フ　明治六

金曜　八月　一日　甲寅

乘馬飼養令ヲ定ム（明治十七）

土曜　八月　二日　乙卯

左大臣藤原時平等三代實錄ヲ上ル（延喜元）

帝國憲法發布記念章制定セラル（明治二十二）

日曜　八月　三日　丙辰

諸國大風洪水（寛治六）

月曜　八月　四日　丁巳

江戸及ヒ近州洪水（寛永元）

火曜 八月 五日 戊午

洋船十數艘長州赤間關ニ來リ襲フ 元治元

出郭

水曜 八月 六日 己未

幕府砲臺ヲ品川海ニ築ク 嘉永五

木曜 八月 七日 庚申

史志ノ擡頭平出闕字等ノ書式ヲ廢ス 明治五

金曜 八月 八日 辛酉

民部權大丞井上馨ヲ佐渡江刺二縣ニ差遣シ大ニ採鑛ノ業ヲ開カシム 明治三

土曜　八月九日　壬戌

散髪脱刀ヲ許ス 明治四

日曜　八月十日　癸亥

尋常郵便ニ通貨封入ノ者ハ驛遞頭開封スルヲ布告ス 明治大

月曜　八月十一日　甲子

神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免及教師等級ノ進退ハ總テ各管長ニ委任ス 明治十七

火曜　八月十二日　乙丑

離宮ヲ芝濱ニ置ク後芝離宮ト稱ス 明治八

水曜 八月十三日 丙寅

諸國大風 永祚元

木曜 八月十四日 丁卯

期限ヲ定メ工作使役等ヲ以テ負債ヲ償フノ外身軀ヲ典質シテ金銀ヲ借ルヲ禁ス 明治八

金曜 八月十五日 戊辰

英船長崎ニ來ル 文化五

始テ國立銀行ヲ設ク 明治五

土曜 八月十六日 己巳

東京市區改正條例公布セラル 明治廿一

日曜　八月十七日　庚午

源頼朝以仁王ノ令旨ヲ奉シ兵ヲ伊豆ニ起ス　治承四

戊辰己巳ノ際順逆ヲ誤リ戦死セシ者其親族朋友ノ之ヲ祭祀スルヲ許ス　明治七

月曜　八月十八日　辛未

火曜　八月十九日　壬申

榎本武揚軍艦運送船八隻ヲ奪フテ品川海ヲ去ル　明治元

水曜　八月二十日　癸酉

始テ銀行紙幣ヲ發行ス　明治六

木曜　八月廿一日　甲戌

内國勸業博覽會開場式ニ臨御　明治十

金曜　八月廿二日　乙亥

曾國ト千島樺太交換ヲ批准セラル　明治八

土曜　八月廿三日　丙子

出羽國ヲ置ク　和銅五

日曜　八月廿四日　丁丑

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並ニ屋號共改稱禁止ヲ布告ス　明治五

月曜　八月廿五日　戊寅

東海諸州海溢レ濱名湖壊ル明應七

江戸大風雨安政三

火曜　八月廿六日　己卯

聖誕日ヲ以テ天長節ト稱シ酺宴ヲ百官ニ賜ヒ刑戮ヲ止ムルヲ布告ス明治元

水曜　八月廿七日　庚辰

後醍醐天皇笠置山ニ幸ス元弘元

今上即位明治元

木曜　八月廿八日　辛巳

楠正成始メテ笠置山ニ至ル元弘

穢多非人等ノ稱ヲ廢ス明治四

金曜　八月廿九日　壬午

土曜　八月三十日　未發

日曜　八月三十一日　甲申

月　曜　九　月　一　日　乙酉

東叡山諸堂成ル　寛永四

火　曜　九　月　二　日　丙戌

勅シテ跪禮匍匐禮ヲ停メ立禮ヲ用ヒシム　天武天皇二年

官吏歲祿ヲ月給ト改ム　明治四

八月會計

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

水曜　九月三日　丁亥

郵便爲換方法ヲ設ケ明年一月ヨリ施行ス　明治七

木曜　九月四日　戊子

東京府下ニ家税ヲ課ス　明治三

金曜　九月五日　己丑

是ヨリ先荷蘭阿珍ノ二國兵ヲ擁ス軍醫監林紀ヲシテ荷蘭軍ニ從ヒ其術ヲ講究セシム　明治大

土曜　九月六日　庚寅

皇子御名嘉仁ト被命明宮ト稱ス　明治十二

日曜　九月七日　辛卯

源義仲兵ヲ起ス　治承四

東西二京間ノ電信線成ル　明治五

月曜　九月八日　壬辰

明治ト改元一世一元ノ制ヲ定ム　明治元

火曜　九月九日　癸巳

午時ノ號砲ヲ設ク　明治四

水曜　九月十日　甲午

上杉輝虎武田晴信ト大ヒニ川中島ニ戰フ　永禄四

木曜 九月十一日 乙未

利息制限法ヲ定ム 明治十

金曜 九月十二日 丙申

鳥取縣ヲ置ク 明治十四

土曜 九月十三日 丁酉

府縣ニ令シ賊徒ノ赦令ニ漏タル者ヲ放免セシム 明治五

日曜 九月十四日 戊戌

僧侶ヲシテ姓氏ヲ稱セシム 明治五

始テ田租法ヲ定ム 慶雲三

徳川家康石田三成ヲ關原ニ破ル 慶長五

持節大使藤原常嗣唐ヨリ還ル 承和六

諸家系圖成ル 寛永十八

金曜　九月十九日　癸卯

凡ソ訴訟曲ニ歸スル者ヲシテ其費ヲ償辨セシム　明治五

土曜　九月二十日　甲辰

大藏省證券條例ヲ制定セラル　明治十七

日曜　九月廿一日　乙巳

神奈川縣ヲ置ク　明治元

月曜　九月廿二日　丙午

斗升法ヲ定ム　延久四

始メテ天長節ノ儀ヲ行フ　明治元

火曜 九月廿三日 丁未

私ニ銃砲彈藥ノ販賣ヲ禁ス 明治五

水曜 九月廿四日 戊申

鹿兒島賊徒平ク 明治十

木曜 九月廿五日 己酉

墨刑ヲ廢ス 明治三

金曜 九月廿六日 庚戌

王政復古ノ功臣ニ賞典祿ヲ賜フ 明治二

土曜　九月廿七日　辛亥

今上親王宣下　萬延元

八日十三夜

日曜　九月廿八日　壬子

大隅櫻島噴火ス　安永八

東西本願寺ヘ勅額ヲ賜フ　明治十二

府縣ニ令シ中小學校（學制ノ定數ニ係ルモノ）營築ノ地ヲ給ス　明治七

水曜　十月一日　乙卯

英國ト郵便爲換定約本日ヨリ施行ス　明治十四

木曜　十月二日　丙辰

江戸地大ヒ　二震フ　二安政

計會　九月

次日	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
計總						
高殘						
計合較比						

金曜 十月三日 丁巳

宮内省中式部寮ヲ廢シ更ニ式部職ヲ置ク 明治十七

土曜 十月四日 戊午

墓地及埋葬取締規則ヲ定ム 明治十七

日曜 十月五日 己未

藤原藤房官ヲ棄テ、去ル 建武元

月曜 十月六日 庚申

勅奏官華族及有位者ノ詞訟民事ニ係ルモノハ直ニ本人ヲ召喚スルヲ停ム 明治十

火曜　十月七日　辛酉

北條氏綱里見氏ト鴻臺ニ戰フ　天文七

農商ノ洋製船舶ヲ有スルヲ許ス　明治二

水曜　十月八日　壬戌

小笠原島ヲ東京府管轄ニ屬ス　明治十三

登記印紙規則公布セラル　明治二十一

木曜　十月九日　癸亥

開成學校新築成ル　天皇親臨シテ開業式ヲ行フ　明治六

金曜　十月十日　甲子

始メテ樓閣ヲ起ス　雄略天皇十二年

航路標識條例公布セラル　明治二十一

土曜　十月十一日　乙丑

御服幷御馬具制御改定本年天長節ヨリ服御ノ旨ヲ令ス　明治十三

日曜　十月十二日　丙寅

明治十四年ヲ期シ國會開設ノ勅諭アリ　明治十四

月曜　十月十三日　丁卯

百濟佛像經論ヲ獻ス　欽明天皇十三年

車駕東京ニ至リ江戸城ヲ以テ皇居トナシ東京城ト稱ス　明治元

火曜　十月十四日　戊辰

民庶ノ釜山港ニ赴キ互市スルヲ許ス　明治九

水曜　十月五日　己巳

大將軍德川慶喜政權ヲ奉還ス　慶應三

木曜　十月六日　庚午

内大臣藤原錬足薨ス　天智天皇八年

金曜　十月七日　辛未

天皇皇后華族學舍ニ臨ミ名ヲ學習院ト賜フ　明治十

土曜　十月八日　壬申

日曜　十月九日　癸酉

皇族ハ官ニ在ルモ職務ニ非サルヨリハ週スルニ本族ヲ以テシ華族ハ六等官ニ準スルノ規則ヲ定ム　明治四

月曜　十月十二日　甲戌

工部省ヲ置ク　明治三閏月

火曜　十月廿一日　乙亥

太政官中ニ参事院ヲ置ク　明治十四

水曜　十月廿二日　丙子

都ヲ山城ニ遷ス今ノ京都是レナリ　延暦十三

木曜 十月廿三日 丁丑

清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ公布セラル 明治二十一

金曜 十月廿四日 戊寅

熊本縣士族大野鐵平等黨ヲ聚メ火ヲ放チテ鎭臺ヲ襲フ 明治九

土曜 十月廿五日 己卯

車駕東幸沿道ノ孝子義僕等ヲ旌賞ス是ニ至リ之ヲ全國ニ施行セシム 明治元

日曜 十月廿六日 庚辰

前相模守北條貞時卒ス 臨長元

月曜　十月廿七日　辛巳

賣藥印紙稅規則ヲ定メ十六年一月一日ヨリ施行ス　明治十五

造營落成ニ付自今宮城ト稱セラル　明治廿一

火曜　十月廿八日　壬午

普化宗ヲ廢ス　明治四

水曜　十月廿九日　癸未

德川宗堯大日本史ヲ幕府ニ上ル　享保五

木曜　十月三十日　甲申

前原一誠ノ位記ヲ褫キ令シテ之ヲ討ス　明治九

金曜　十月卅一日　乙酉

辨理大臣大久保利通淸國ト蕃地ノ處分ヲ訂約ス 明治七

十月會計

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
比較合計						

土曜　十一月一日　丙戌

天保通寶ヲ行フ　天保八

新潟及兵港ニ外國人居留ヲ定ム　慶應三

日曜　十一月二日　丁亥

郡區ノ制ヲ定ム　明治十一

月曜　十一月三日　戊子

延喜通寶ヲ鑄ル　延喜七

天長

火曜　十一月四日　己丑

國内平定ヲ各國公使ニ告ケ局外中立ヲ解カシム　明治元

水曜 十一月五日 庚寅

日本鐵道會社ノ創設ヲ許可ス 明治十四

木曜 十一月六日 辛卯

治河使ヲ置キ六ニ水利ヲ修治スルヲ布告ス 明治元

金曜 十一月七日 壬辰

平民ノ官ニ在ル者其家人ヲ士族ニ準ス 明治五

土曜 十一月八日 癸巳

水星太陽ヲ經過ス 明治四

日曜　十一月九日　甲午

太陰暦ヲ廢シ太陽暦ヲ用ヒ十二月三日ヲ以テ明年一月一日トナス　明治五

朝ニ曇リ寒シ

晴ニ支那公使ノ父トモ伏見ヘ

後青山墓ヲ菊花ヲ見ス

鹿屋今井喜ヲ訪金玉花ノ南陣ナリ下宮ヘ沢屯改同

登夜来雨降ル十時頃帰宅

月曜　十一月十日　乙未

内務省ヲ置ク　明治六

朝雨　觀菊會　近人キランカ

出勤

大八日　為願三十回書留ニ出ス

午後二時半青山離宮ヲ拜

觀菊花ヲ見ル公使同行人

西階下ヘ陪ス西饗ノ下ニ

夜亞細亞獨ノ和平ヲ

松漢韓三国国楽

火曜　十一月十一日　丙申

始メテ記録所ヲ置ク　延久元閏月

好晴ニ朝北沢来ル

支那公使ノ女ヲ伏見ヘ送ル

支井昨夜帰国ノ事大山陸ノ事ヲ深ス

出勤元田ニ勾殺面ヲ見ル

桃園院ノ三人出ニ投招仍テ

仍テ支那公使ニ改日ヲ請ス

退下翁ヲ訪十二時改ト

元田花房ニ立籍ヲ告ス

退下銀坐ヨリ木平職人ヲ

リ北窓ノ内桝ヲ再ス

徳原来

水曜　十一月十二日　丁酉

大禮服通常禮服ノ制ヲ定メ衣冠ヲ以テ祭服トナス　明治五

曇

出勤

支那公使ノ女ヲ見ル

雨ニ成

午後二時ニ花溝ニ西陣下ヲ出ス

スヘンザノ氣色ヲ見ル

折ヘリ雨降ル

溝水ニ為入ル

上下無帰唯

退下本郷大條老七郎ヲ

入御楊ノ如ク寄ス

木曜 十一月十三日 戊戌

文徳實錄成ル 元慶三

西征戦死者ヲ招魂社ニ祭ル 明治十

金曜 十一月十四日 己亥

僧侶ノ托鉢ヲ禁ス 明治五

土曜 十一月十五日 庚子

神武天皇即位ノ年ヲ以テ紀元ト爲ス 明治五

日曜 十一月十六日 辛丑

贈月照薩摩海ニ投シテ死ス 安政五

勲章佩用式ヲ公布セラル 明治二 十二

月曜 十一月十七日 壬寅

大嘗祭ヲ皇城内ニ行フ 明治四

火曜 十一月十八日 癸卯

清國軍艦始テ長崎ニ至ル 明治八

水曜 十一月十九日 甲辰

外國政府ノ賞牌ヲ受ケシ者ハ其事由ヲ稟シ許可ヲ得テ後之ヲ佩ヒシム 明治八

木曜 十一月二十日 乙巳

金曜 十一月廿一日 丙午

始メテ藤原基經ヲ以テ關白ト爲ス 仁和三

平將門反ス 天慶二

土曜 十一月廿二日 丁未

富士山噴火ス 寶永四 全國ヲ分テ三府七十二縣トナシ郡縣ノ制ヲ定ム 明治四

日曜 十一月廿三日 戊申

英吉利公使米利堅公使孛漏生公使朝見幷ニ東幸ヲ賀ス 明治元

月曜 十一月廿四日 己酉

寶永山涌出ス 寶永四

火曜　十一月廿五日　庚戌

神武天皇ヲ皇城内ニ祭リ紀元ヲ定ムルヲ告ク　明治五

水曜　十一月廿六日　辛亥

辨理大臣大久保利通清國ヨリ歸朝ス　明治七

木曜　十一月廿七日　壬子

詔シテ車駕西還成功ヲ伊勢太廟ニ告ク　明治元

金曜　十一月廿八日　癸丑

幕府江戸鐵砲洲ヲ以テ外國人居地ト爲シ居民ノ其家屋ヲ貸與スルヲ許ス　慶應三

土曜　十一月廿九日　甲寅

東京女子師範學校開業式ヲ行フ　明治八

日曜　十一月三十日　乙卯

土地賣買讓渡規則ヲ定ム　明治十三

計會月一十

日次	受攜方要	円		拂方攜要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
總計						
殘高						
比較合計						

月曜　十二月一日　丙辰

詔シテ全國徴兵ノ制ヲ設ク　明治五

火曜　十二月二日　丁巳

僧潭庵寂ス年七十三　正保二

水曜　十二月三日　戊午

本日ヲ以テ明治六年一月一日ト定ム　明治五

木曜　十二月四日　己未

豊臣秀吉造ル所ノ京都方廣寺大佛殿火ア　慶長七リ

金曜　十二月五日　庚申

始メテ冠位十二階ヲ定ム　推古天皇十一年
詔シテ令義解ヲ施行ス　養老元

土曜　十二月六日　辛酉

水戸黄門光國卒ス　元禄十三

日曜　十二月七日　壬戌

兵庫及大阪互市場ヲ開ク　慶應三
陸奥ヲ五國ニ出羽ヲ二國ニ分ツ　明治元

月曜　十二月八日　癸亥

勅使ヲ發シテ東北平定ヲ太廟ニ告ク　明治元

火曜　十二月九日　甲子

皇族ノ少壮者ニ命シテ海陸軍事ヲ習ハシ（明治六）

水曜　十二月十日　乙丑

親王二世已下賜姓ノ制ヲ立ツ（明治三）

木曜　十二月十一日　丙寅

平將門下野ヲ陷ル（天慶二）

金曜　十二月十二日　丁卯

司法省法學校正則科ヲ文部省ノ所轄ニ屬シ東京法學校ト稱ス（明治十七）

土曜　十二月十三日　戊辰

大審院裁判所職員考績條例ヲ定ム　明治十七

日曜　十二月十四日　己巳

濃野長矩ノ遺臣等吉良義英ヲ殺ス　元禄十五

月曜　十二月十五日　庚午

東海鎮守府ヲ相模國三浦郡横須賀ニ移シ横須賀鎮守府ト改稱ス　明治十七

火曜　十二月十六日　辛未

富士山噴火ス　長元僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限ルヲ令ス　明治九

水曜　十二月十七日　壬申

百官ノ靴履上廳ヲ許ス　明治四

木曜　十二月十八日　癸酉

華士族卒ノ農工商業ヲ營ムヲ許ス　明治四

特許條例意匠條例公布及商標條例改正セラル　明治二十一

藥劑其他無稅輸出ノ件ヲ公布セラル　明治二十一

金曜　十二月十九日　甲戌

日本後記ヲ上ル　承和八

東京府區內清酒輸入規則ヲ公布セラル　明治二十一

土曜　十二月二十日　乙亥

華族就學規則ヲ定メ明治十八年ヨリ施行ス　明治十七

日曜　十二月廿一日　丙子

參議伯爵井上馨ヲ特派全權大使トシテ朝鮮國ヘ差遣ス　明治十七

月曜　十二月廿二日　丁丑

從前ノ職制ヲ廢シ內閣總理大臣及諸省大臣ヲ置キ內閣ヲ組織ス　明治十八

火曜　十二月廿三日　戊寅

內閣改制ノ詔ヲ發セラル　明治十八

水曜　十二月廿四日　己卯

木曜　十二月廿五日　庚辰

源頼義源齊頼ヲシテ安倍貞任ヲ討セシム

天喜五　保安條例公布セラル　明治二十

出勤

金曜　十二月廿六日　辛巳

延喜式成ル　延長五　徳川家康生ル　天文十一

出勤

土曜　十二月廿七日　壬午

火薬取締規則及爆發物取締罰則ヲ制定ス　明治十七

出勤

日曜　十二月廿八日　癸未

新聞紙條例出版條例寫眞版權條例ノ改正及版權條例脚本檢閲條例ヲ公布セラル　明治二十

月曜　十二月廿九日　甲申

百官ヲシテ歳終ノ慶賀ヲ申セシム　明治二

火曜　十二月三十日　乙酉

水曜　十二月三十一日　丙戌

天皇賞牌親佩式ヲ行フ又賞牌ヲ諸親王ニ授ケラル　明治八

十二月會計

日次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一						
二						
三						
四						
五						
六						
七						
八						
九						
十						
十一						
十二						
十三						
十四						
十五						
十六						
十七						
十八						
十九						
二十						
廿一						
廿二						
廿三						
廿四						
廿五						
廿六						
廿七						
廿八						
廿九						
三十						
卅一						
總計						
殘高						
合計比較						

明治廿三年總計

月次	受方摘要	円		拂方摘要	円	
一月						
二月						
三月						
四月						
五月						
六月						
七月						
八月						
九月						
十月						
十一月						
十二月						
總計						
殘高						
合計比較						

東京

神田區雉子町卅二番地

日本學社